



平成 26 年 12 月 26 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（12月25日観測）

12月25日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

火砕丘にある火口から、1分間に5～6回の頻度で溶岩片を伴う噴火を繰り返していた。溶岩流は火砕丘から北方向に流出し、新たな陸地が形成されていた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回の当庁航空機による観測(10/16)と比較して、北方向に拡大していた（図6参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、
「前回の観測と比較して爆発の頻度に大きな変化はなく、活発な状態で推移している。
火砕丘にある火口の底にマグマ頂部が見えており、マグマの供給は活発なままである。北方向への溶岩の流出が継続しており、旧西之島は、一部を残して溶岩流に覆われている。
これらのことから、新たな陸地の成長は今後も継続すると思われる。」
とのコメントが得られた。

※12月25日時点での形状（暫定値）

・東西：約 1,700 m（10月16日時点 東西：約 1,550 m）

・南北：約 1,850 m（10月16日時点 南北：約 1,700 m）

・面積：約 2.29 平方 km、東京ドームの約 49 倍

（10月16日時点 約 1.85 平方 km、東京ドームの約 40 倍）

（参考）西之島全体の面積：約 2.30 平方 km

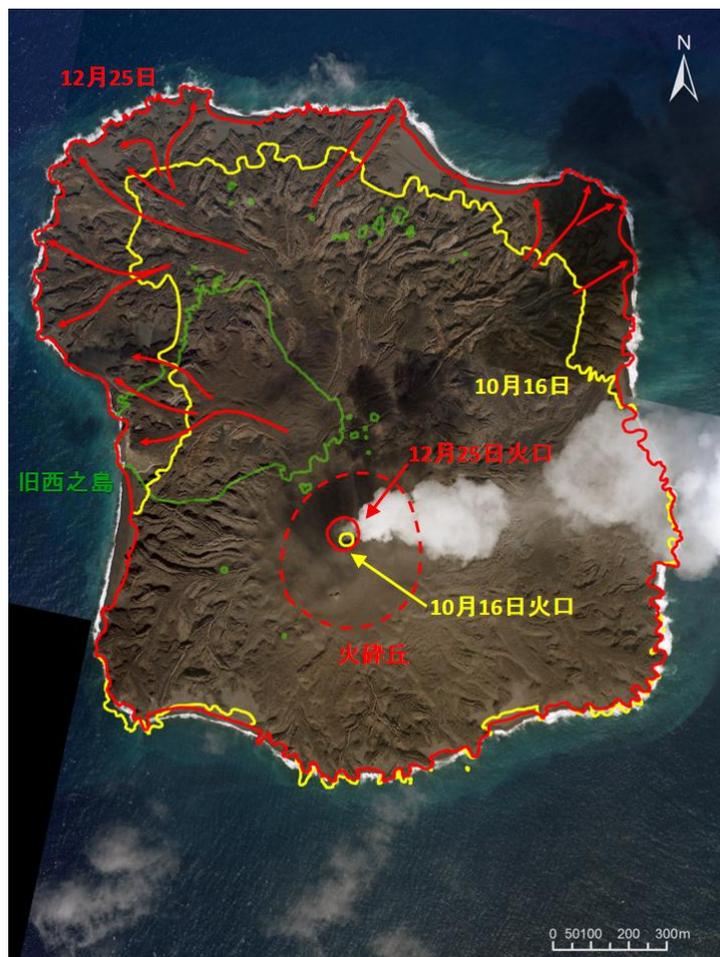


図1 火砕丘及び火口の位置（12月25日撮影）



図2 北西方向から見た西之島（12月25日撮影）

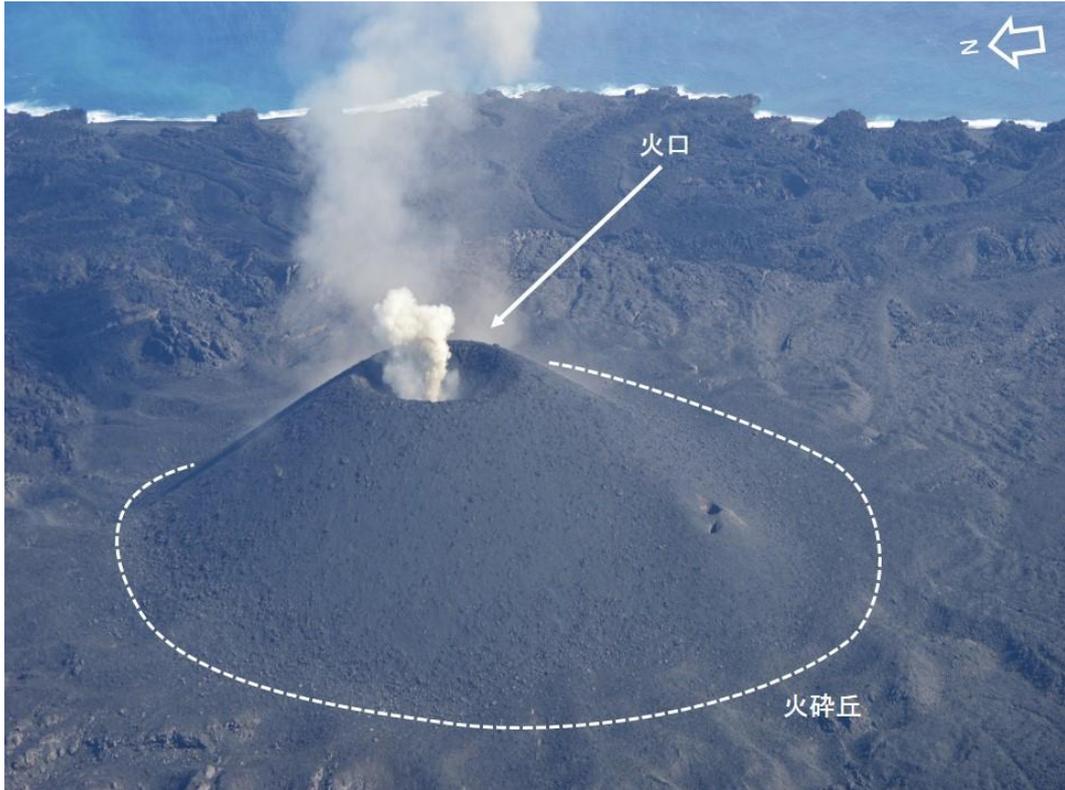


図3 火砕丘の火口から噴煙を噴出（12月25日撮影）

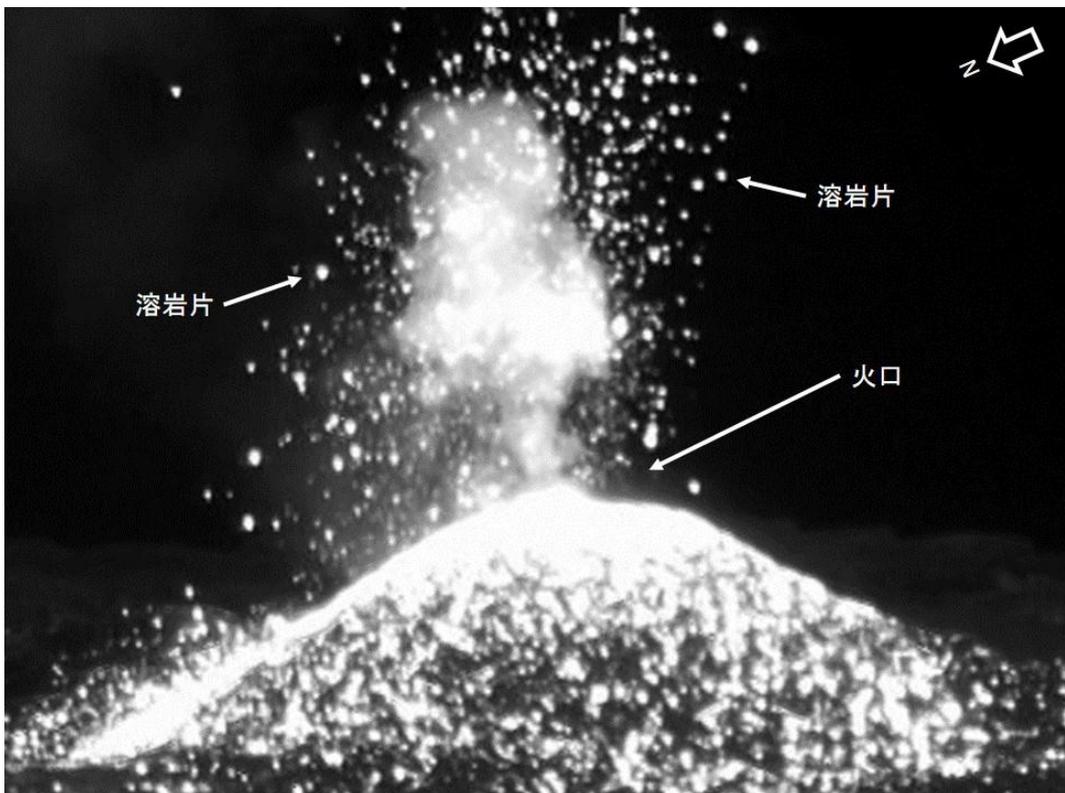


図4 火砕丘の火口から溶岩片を噴出（12月25日撮影）
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）

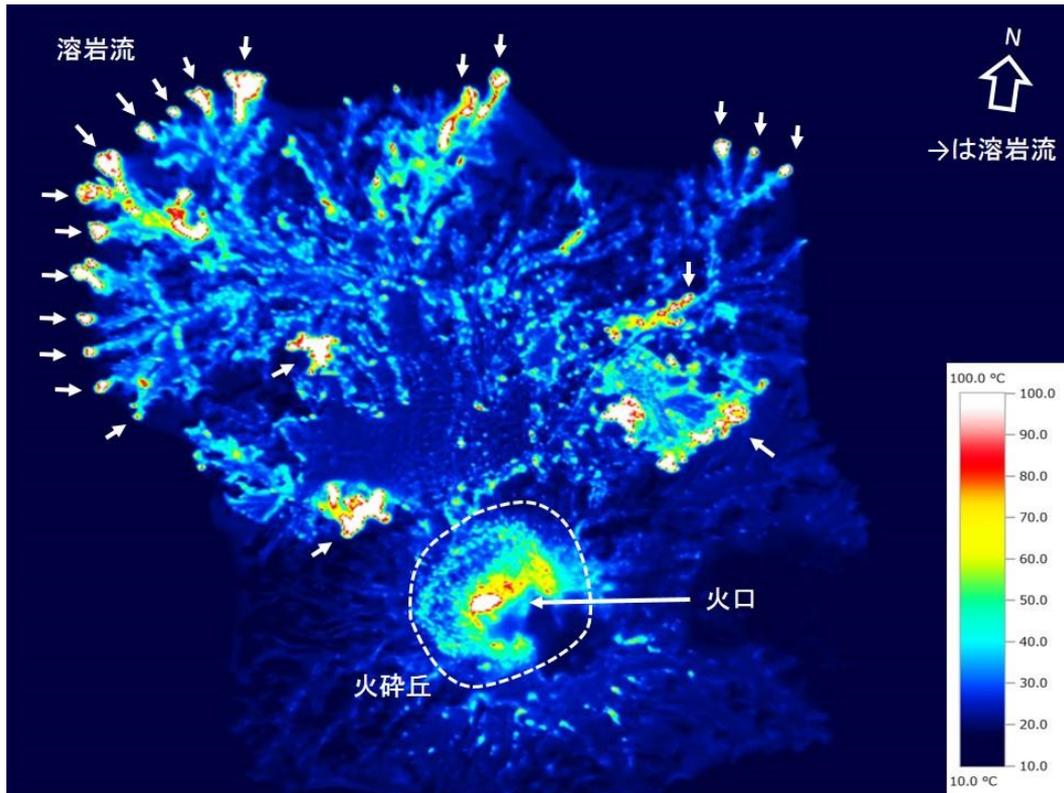


図5 熱画像の解析結果（12月25日撮影）
溶岩流が火砕丘から北方向に扇状に流れているのが確認できる。

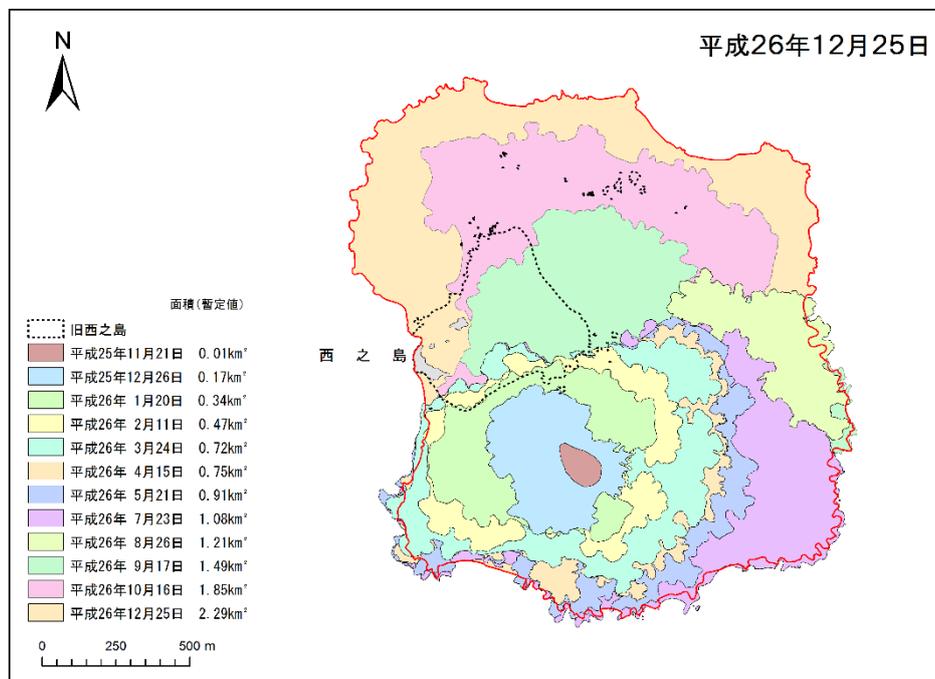


図6 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子
赤線は12月25日現在の陸地の外縁